

入江一雄、

入江一雄がショパンと向き合い、
その「ルバート」の核心に迫る

ショパン を弾く

2026年

6月12日(金)

ご予約はこちら



開場 18:30/開演 19:00

入場料:会員4,500円(座席指定可)

一般5,000円/学生2,500円(全席自由席)

Program

フレデリック・ショパン

バラード 第1番 ㄗ短調 Op.23

バラード 第2番 へ長調 Op.38

バラード 第3番 変イ長調 Op.47

バラード 第4番 へ短調 Op.52

スケルツォ 第1番 ㄗ短調 Op.20

スケルツォ 第2番 変ㄗ短調 Op.31

スケルツォ 第3番 嬰ハ短調 Op.39

スケルツォ 第4番 ホ長調 Op.54

バラード&スケルツォ 全曲



Shibuya
Mitake
Salon

123
Shibuya Mitake Salon (vol.194)

入江 一雄 ショパンを弾く

バラード & スケルツォ 全曲

2026年6月12日(金)
開場 18:30/開演 19:00

入場料:会員4,500円(座席指定可)/
一般5,000円/学生2,500円(全席自由席)

入江一雄がショパンと向き合い、その「ルバート」の核心に迫る!

入江一雄のショパンが聴けるらしい。

昨年の秋、第19回ショパン国際ピアノ・コンクールが大きな盛り上がりを見せ、私たちは実に多様なショパンに出会うことになった。

その経験は、「ショパンらしさとは何か」「よいショパンの演奏とは何か」を改めて考えさせる機会でもあった。

ショパンの音楽は、一見すると情緒的でロマンティックに聴こえる。

旋律は美しく、歌心に満ちている。しかし、ただ歌わせればよいというものではない。旋律ばかりを強調してしまうと、音楽を支える左手の秩序が失われ、ショパンが求めたであろう均衡から外れてしまう。そうすると音楽はいつしか自己陶酔的なものへと傾き、どこか落ち着かない違和感を残すこともある。

多様な解釈があってよい時代ではある。

さまざまなショパンがあってよいという考え方も、もちろん理解できる。しかしその一方で、作曲家の書いたものに真摯に向き合い、「ショパンとは何か」を誠実に問い続ける演奏に出会うと、やはり心を動かされるものだ。

入江一雄の演奏には、そうした誠実さがある。

バッハ、ベートーヴェン、プロコフィエフ、ラフマニノフ—— 彼がこれまで取り上げてきた作品でも、常に音楽の構造を見据えながら、その内側にある詩情を丁寧に浮かび上がらせてきた。

派手な身振りで聴き手を圧倒するというよりも、作品そのものが持つ力を磨き上げられた形で静かに立ち上がらせる、まるで作品の内部にいるかのような立体的な演奏である。

今回取り上げるのは、ショパンの《バラード》と《スケルツォ》の全曲。

いずれもショパンの作品の中でも特に劇的で、詩的な世界が濃密に凝縮された作品群である。

旋律の美しさ、激しい情熱、そして精巧な構造が共存する、ショパンの精神がもつと鮮やかに現れる音楽と言ってよいだろう。

入江一雄のショパン、と聞くと少し意外に感じる人もいるかもしれない。

しかし以前のインタビューには、それを裏づける興味深い言葉が残されている。ショパンの音楽には「ルバート」と呼ばれる独特の呼吸がある。

左手は静かに時を刻みながら、右手は自由に揺れ動く。

しかし音楽全体としては、決して時間が崩れるわけではなく、ひとつの大きな流れの中に保たれている——。

ショパン演奏の核心とも言われるこの感覚を、入江氏は師であるヴィルサラゼ女史のもとで実感したという。

彼女の演奏では、声部がまるで別々の人格を持つかのように独立して響き、三つの声部があれば三つの声をはっきりと聴こえてくる。そのとき音楽は単なる旋律の連なりではなく、立体的な空間として立ち上がる。

そうした体験は、入江氏のショパン観を形づくる大きな手がかりとなったようだ。

ショパンの詩情と構造。その両方が、入江一雄のピアノによってどのように立ち現れるのか。

それを確かめるには、実際に耳を傾けてみるほかない。

コンクールでは味わえない、《バラード》と《スケルツォ》の全曲というプログラム。

「全曲」で聴くことができるという点にも、彼の音楽に対する誠実さが表れているように思う。

この貴重な機会を逃すわけにはいかないだろう。

(渋谷美竹サロン)

入江 一雄 (KAZUO Irie) Piano

東京藝術大学・同大学院を首席で卒業・修了。2012年9月よりチャイコフスキー記念ロシア国立モスクワ音楽院研究科に在籍し、2016年夏にディプロマを取得し同科を修了。留学中にロームミュージックファンデーション(2012,13年度)・文化庁(2015年度)より助成を受ける。

第77回日本音楽コンクールピアノ部門第1位、第1回コインブラ・ワールド・ピアノ・ミーティング(ポルトガル)第5位入賞他受賞多数。幅広いレパートリーの中でもライフワークであるプロコフィエフのピアノソナタ全曲演奏会を成功させる等のソロ活動に加え、東京・春・音楽祭や北九州国際音楽祭などの国内主要音楽祭やNHK-FM「リサイタル・パッショ」への出演、新日本フィル・東京フィル・日本フィル・九響・芸大フィルなどの国内主要オーケストラとの共演や、若手演奏家からベテラン奏者まで幅広い音楽家との共演機会も多い。近年では篠崎史紀氏から絶大な支持を受け、同氏リサイタルや室内楽公演で多くの共演機会に恵まれる。

2021年よりソロ・リサイタルシリーズをスタートさせる。

これまでに植田克己、エリッ・ヴィルサラゼら著名な音楽家に師事。現在、桐朋学園大学および昭和音楽大学で教鞭を取る。

公演情報 <https://lit.link/kazustin49>

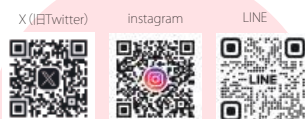


世界に通用する才能溢れる
トップアーティストが
続々と集結!

大ホールのプラチナ席をしのご
生演奏の醍醐味、
一期一会で味わう圧倒的な臨在感。

日本のトップクラスの演奏家たちが、
こだわり抜いた価値ある企画をお届けしていきます。

渋谷美竹サロン(美竹清花さろん)が追求する
“本物の音楽”は、演奏者と参加者とわたしたちの、
三位一体の努力と対話から生まれます。



誕生。
クラシック音楽サロン、
宮益坂、
渋谷駅 徒歩2分

サロン・メンバーズ
入会の詳細はこちら
(一時停止中)



●お問い合わせ

株式会社 ILA 渋谷美竹サロン (美竹清花さろん)

東京都渋谷区渋谷1-12-8 (〒150-0002)

☎ 03-6452-6711 (月・金 10:30-17:00)

070-2168-8484 (繋がりにくい場合)

Fax 03(3409)0188



公式Webサイト

